

平成30年度 事業報告書

自 平成30年 4月 1日

至 平成31年 3月31日

令和元年 5月20日

学校法人 金蘭千里学園

1. 法人の概要

単位：名

項 目	高 校	中 学	備 考
設 置 する 学 校	金 蘭 千 里 高 等 学 校	金 蘭 千 里 中 学 校	
入 学 定 員	1 8 0	1 8 0	
在 校 生 徒 数	4 9 7	5 9 6	平成30年5月1日現在
教 職 員 数	5 4	6 0	平成30年5月1日現在

2. 事業の概要

・金蘭千里中学校・高等学校における事業の基本的な概要

以下の項目・内容を基本・原則として、教育事業を展開した。

男女共学 1学級30人

学習指導

○カリキュラム

併設型中高一貫校としてのカリキュラムによる効果的、効率的学習

英語・数学・国語は、基礎科目として時間増

理科・社会は、広範な科目を履修することによる幅広い進路選択への対応

○20分テスト

通常授業を重視し、月～金曜日に成績評定を決する復習テストを実施し、成績状況を授業や個別指導にフィードバックすることによる学力の向上、定着

○特別授業

学力の補足、練成のための、夏季・冬季・春季長期休業期間における特別授業の実施

生活指導

担任を中心とした個人指導の徹底

スポーツ

○校技

男子はサッカー、女子はバレーボールを校技と定め、6年間を通じた指導により全生徒が共通のスポーツとして習得

○他種目

校技に加え、学年によってテニス、バスケットボール、卓球、ハンドボール、バトミントン、男子バレーボール、女子サッカー、ゴルフを選択履修

国際理解／キャリア教育

○「日常」と「異文化」の相対化と「体験」による「知識」の裏付けによる「弾力的国際人」を育成するためのカリキュラム

○中高6年間の発達段階と生徒の個性と能力に応じた進路指導のため、外部講師による講演や職業体験などを通じた、単なる大学進学指導に止まらない幅広い進路指導

・ネイティブ・スピーカーである教員による英語指導

・外務省や国際機関、外国公館を通じ派遣された専門家による、国際事情の理解を深めるための講演

・民族学博物館の見学による異文化理解

・イギリス海外研修（イートン校・ハロウ校）＜希望者のみ＞

・能楽、狂言、茶事、落語といった日本の伝統文化体験

・本校卒業生による進路決定に至る体験の講演

・職業選択に至るプロセスに関する講義や、医療従事者、起業家等の専門家を招いた講演

□野外活動

○キャンプ・自然研修

各学年キャンプ又は自然研修旅行の実施による自然体験

○徒歩訓練

北摂の自然に触れるオリエンテーリング形式の行事の実施

□情操教育

○音楽鑑賞

国内外の一流のアーティストによる演奏鑑賞の実施

○合唱祭

中学生・高校一年生が運営企画するクラス対抗のコンクールの実施

□情報教育

I C T環境を整備し、eメール、インターネット等の基礎技術の修得や各教科学習の補助に資するとともに、情報化社会に対応する情報処理モラルの涵養

□自主性の涵養

○クラブ活動の充実を図ることにより生徒の多様性に対応するとともに、生徒に多面的な負荷をかけることにより「勉強を頑張りクラブ活動も頑張る」スタイルを確立させ、多彩な活動ができる人材を育成

○文化祭、体育祭の運営を通じ独創性と自発性の涵養

・当該年度の主な事業の計画・目的

□体育館の整備

・金蘭会学園からの借用となっている体育館の所有権等について、資産交換等を含めた取得等の対応について、金蘭会学園との交渉をすすめる。

□校舎新館（仮称）の整備計画の策定について

・クラブ数の増加、学び学習、体験学習、I C T化など、50周年改革や、教育環境の変革に対応した校舎新館（仮称）の整備について、今年度内に具体的な建設計画の策定を行うべく検討を行う。

□学校に対する満足度向上の取組み

・大学入試改革に対応したカリキュラムの構築、自習体制の整備、昨年度より開始した授業アンケート結果の授業内容へのフィードバック、昨年度設備整備を完了したI C T環境の活用等を通じ、生徒及び保護者の本校に対する満足度の更なる向上を図る。

・当該計画の進捗状況

□体育館の整備

・金蘭会学園との資産交換、売買交渉が一旦白紙となったことから、次項に挙げる校舎新館（仮称）に新たな体育館を含めることで体育館を自己所有とする方向での検討を進めた。

□校舎新館（仮称）の整備計画の策定について

・校務運営委員会を当計画の検討主体とすることとし、必要に応じ関係箇所に意見聴取をしながら検討を進めた。

・校舎新館（仮称）の整備の検討に当たり、解決すべき問題点の抽出を行なった。

- 1) 災害時や長期修繕期間等、また土曜学校を初めとした千里金蘭大学による使用機会の増加のため、佐藤記念講堂を借用できないケースの増加が懸念されること
- 2) 体育館を自己所有とする必要性和、クラブ活動の増加に伴う体育設備の不足
- 3) 50周年改革や教育環境の変化に伴い新たに必要となる施設の整備

4) 現校舎において教室が慢性的に不足しており、教育環境維持や募集活動の障害となりかねない状況である。

- ・上記の観点から必要と思われる施設のリストアップなどを行い、次年度予算規模と併せ具体的な建設計画を進めることとした。

□学校に対する満足度向上の取組み

- ・学力の3要素のうち、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」のかなりの部分については、創立以来の毎朝の20分テストと1クラス約30人という少人数制を生かした徹底した個別指導に特徴づけられる本校教育で対応してきた。それに加え平成26年度以降の創立50周年改革において「思考力・判断力・表現力」の一層の強化及びもう一つの要素「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の育成を目指し、平成27年度より演劇ワークショップを導入、平成28年度より大阪グランフロントのナレッジアワードへ参加などに取り組んだ。今年度はクエストカップへの取り組みを開始、中二・中三が実際に大会に参加し、参加初年度にもかかわらず全国大会出場を成し遂げるなど教育内容の充実を図り、多様化する教育内容への要望に応えるべく取り組みを行った。
- ・図書室の開室時間を17時20分に延長し、保護者から要望の多い学校における自習の場の提供を行った。
- ・平成29年度のICT設備工事の完了を受け、今年度は当初より全教室においてICT機器を使用した授業の展開が可能になり、教員間で使用事例の共有を行うなど、ICT教育の深度化を図った。
また平成31年度には高校2年生以下の生徒全員がタブレット端末を所持することとし、その準備期間として機種選定や使用するアプリの選定、日常授業での有効活用に向けた検討などをすすめ、平成31年度に本格化するICT教育に対する環境整備を進めた。

以上